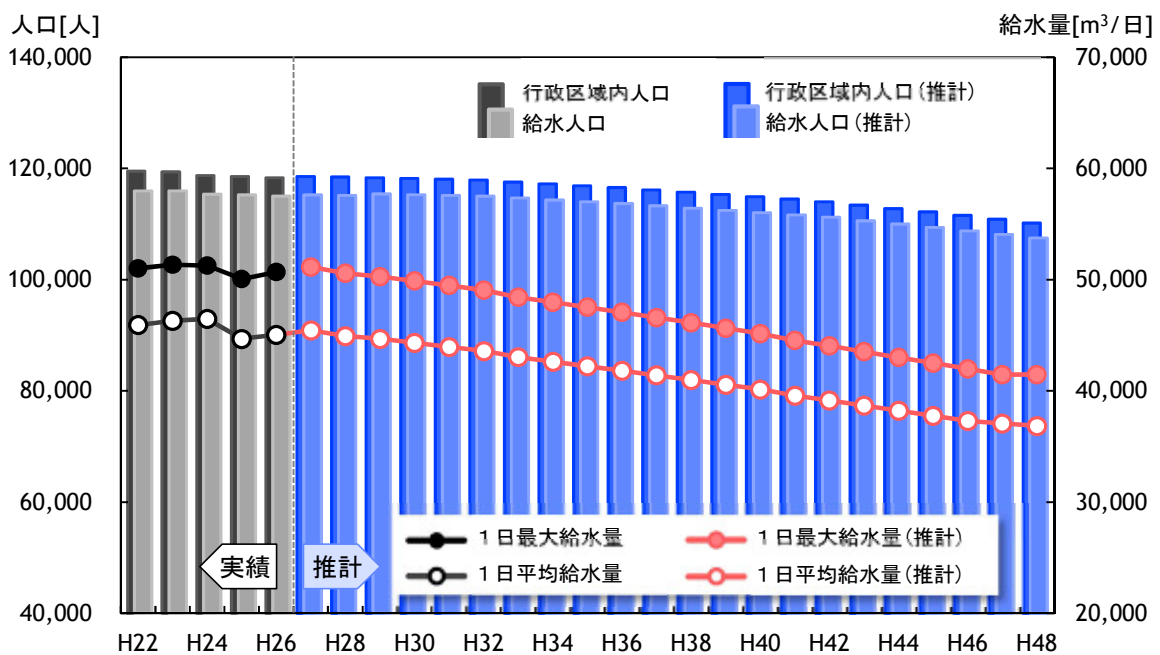


3 水需要予測結果について

3.1 那須塩原市全体の人口と給水量の予測

年度		実績値				予測値				
		平成17年	～	平成22年	～	平成26年	～	平成38年	～	平成48年
人口	行政区域内人口 人	合 併	↗	119,537 人	↘	118,351 人 (-1,186)	↘	115,738 人 (-2,613)	↘	110,210 人 (-8,141)
	給水人口 人		↗	115,984 人	↘	115,029 人 (-955)	↘	112,882 人 (-2,147)	↘	107,483 人 (-7,546)
給水量	一日最大給水量 m ³ /日		↗	51,023 m ³ /日	↘	50,689 m ³ /日 (-334)	↘	46,125 m ³ /日 (-4,564)	↘	41,480 m ³ /日 (-9,209)
	一日平均給水量 m ³ /日		↗	45,924 m ³ /日	↘	45,036 m ³ /日 (-888)	↘	40,982 m ³ /日 (-4,054)	↘	36,855 m ³ /日 (-8,181)



(行政区域内人口は「那須塩原市定住促進計画 (H27.3)」を参照)

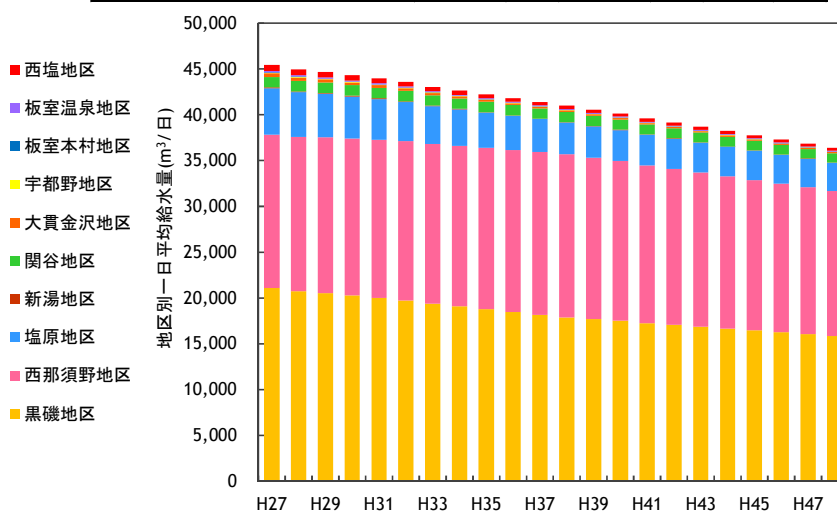
3.2 地区別給水量の予測

地区別の給水量は、黒磯地区 (46.5%)、西那須野地区 (36.1%)、塩原地区 (10.8%) で全体の 90%以上を占めています。また直近 5 年間 (平成 22 年～26 年) における地区別の給水量は、西那須野・関谷地区を除き減少傾向にあります。

地区名	黒磯	西那須野	塩原	新湯	関谷	大貫金沢	宇都野	板室本村	板室温泉	西塩
割合	46.5%	36.1%	10.8%	0.2%	3.0%	1.2%	0.1%	0.2%	0.3%	1.6%
増減率	-0.8%	+1.3%	-2.7%	-7.4%	+0.6%	-7.3%	-1.0%	-11.1%	-2.4%	-5.1%
増減	微減	増	減	減	微増	減	微減	減	減	減

直近5年間における地区別の増減傾向をもとに、平成48年までの地区別給水量を予測しました。

地区	実績値		予測値			
	平成26年		~	平成32年	~	平成38年
	%		%	%	%	%
黒磯地区	46.6	↓	45.3	↓	43.6	(-3.0%)
西那須野地区	36.2	↑	39.9	↑	43.5	(+7.3%)
塩原地区	11.4	↓	9.8	↓	8.4	(-3.0%)
新湯地区	0.3	↓	0.2	↓	0.1	(-0.2%)
関谷地区	2.5	↑	2.6	↑	2.8	(+0.3%)
大貫金沢地区	0.9	↓	0.6	↓	0.4	(-0.5%)
宇都野地区	0.12	↓	0.12	↓	0.11	(-0.01%)
板室本村地区	0.2	↓	0.1	↓	0.04	(-0.12%)
板室温泉地区	0.3	↓	0.3	↓	0.2	(-0.1%)
西塩地区	1.6	↓	1.2	↓	0.9	(-0.7%)
市全体での一日平均配水量[m ³ /日]	45,036	m ³ /日	43,594	m ³ /日	40,982	m ³ /日



3.3 地区別の有収率※

那須塩原市における有収率は、全国平均 90.4%と比較し低い水準 (77.7%) にあります。地区別では、塩原地区で 53.4%、関谷地区で 66.0%と低いことがわかります。浄水場で作った水を、無駄に失うことなくお客さまに届けることは、コストの削減やエコの観点から重要です。今後は、有収率の低い塩原・関谷地区において、漏水調査の集中実施や料金収入に結びつかない水の行く先を、計画的に調べ、原因を究明し、改善策を講じる必要があります。

まとめ

人口及び給水量は、今後さらに減少していくことが予想されます。老朽化した施設を更新する際や新たな計画を立てる際は、水需要の減少分を考慮し、適切な大きさ（容量）の施設を設計する必要があります。また有収率の低い塩原・関谷地区において、有収率の向上策を講じ、給水効率を上げることが求められます。

地区名	有収率
黒磯	79.2%
西那須野	83.2%
塩原	53.4%
新湯	90.3%
関谷	66.0%
大貫金沢	92.2%
宇都野	89.2%
板室本村	76.8%
板室温泉	80.3%
西塩	89.9%
全体	77.7%

※ 有収率とは、実際に配水した水量と料金収入のあった水量の比率です。漏水などの料金収入に結びつかない水量が多いと値は低くなります。